

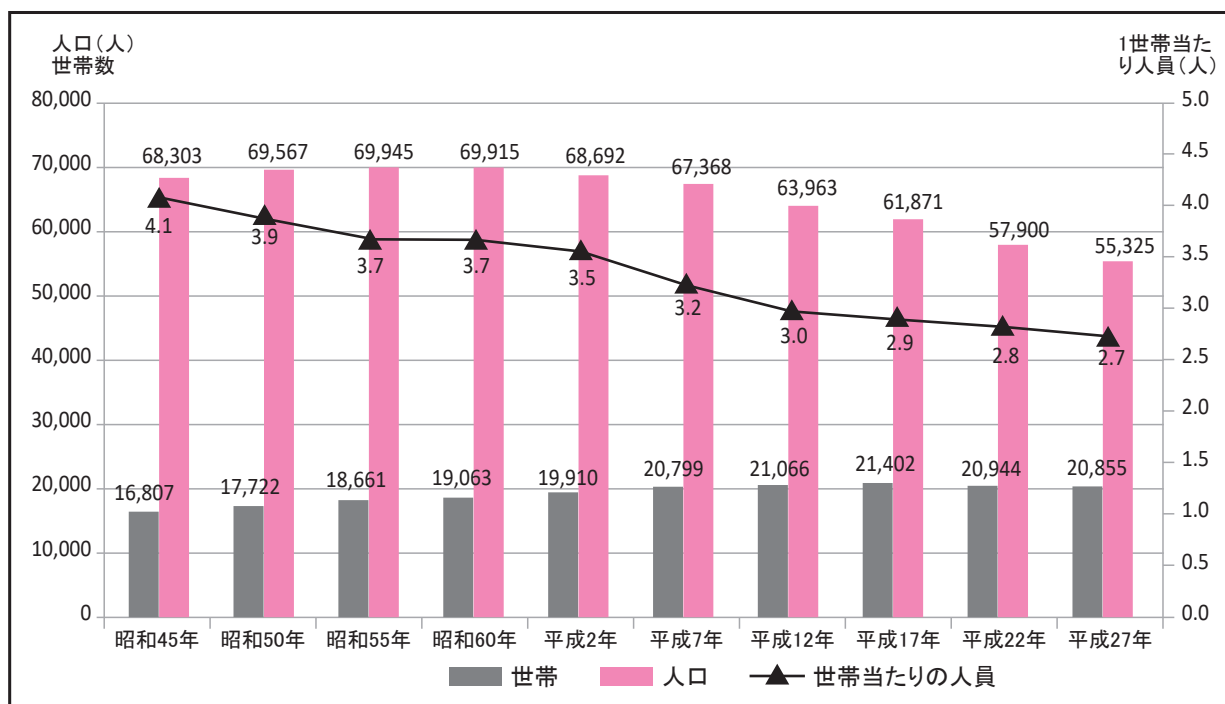
1. 現状

(1) 統計データ

国勢調査の結果を見ると、総人口は、昭和55年の69,945人をピークに減少し、平成27年には55,325人となり、35年間で14,620人減少しています。

世帯数は、平成17年まで緩やかに増加していましたが、それ以降は減少傾向となっています。総人口が減少する中で、世帯数が増加していること、1世帯当たりの人員が減少していることから、核家族化が進んでいることが見て取れます。

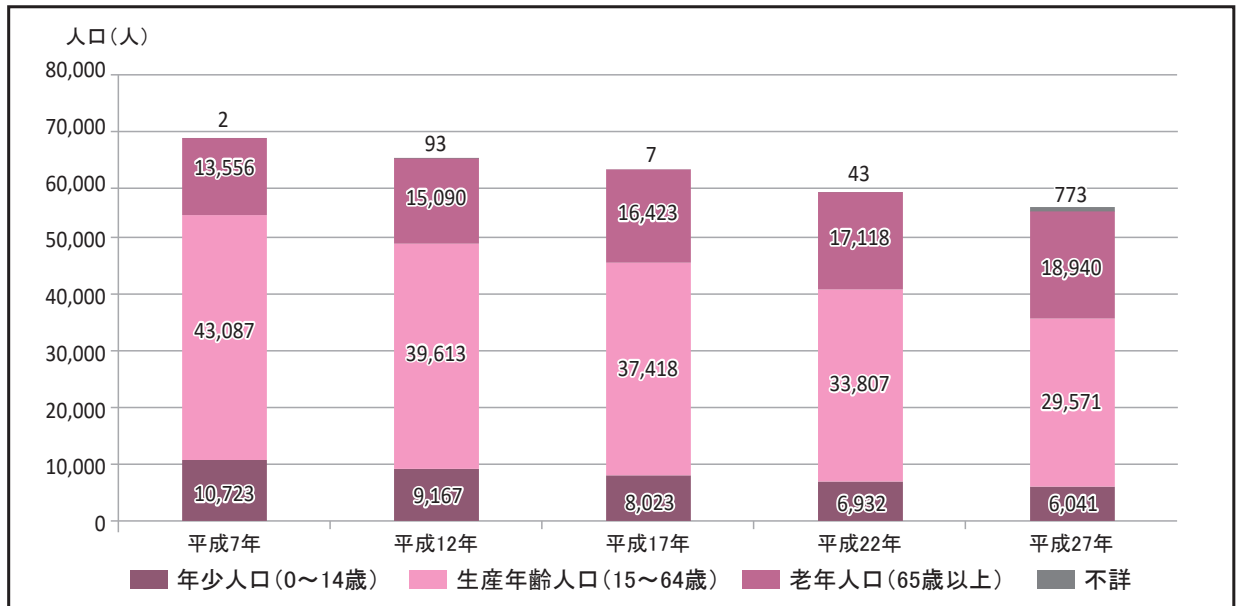
■七尾市の人口、世帯数及び世帯当たり人員数の推移



資料：国勢調査(昭和45年～平成27年)

年齢区分別では、年少人口（0～14歳）の比率と生産年齢人口（15～64歳）の比率が減少しているのに対し、老年人口（65歳以上）は増加していることから少子高齢化が進行していることが見て取れます。また、平成7年は、高齢者1人を生産年齢約3.1人で支えていましたが、平成27年は、高齢者1人を生産年齢約1.5人で支えていることが分かります。

■七尾市の年齢3区分別人口の推移

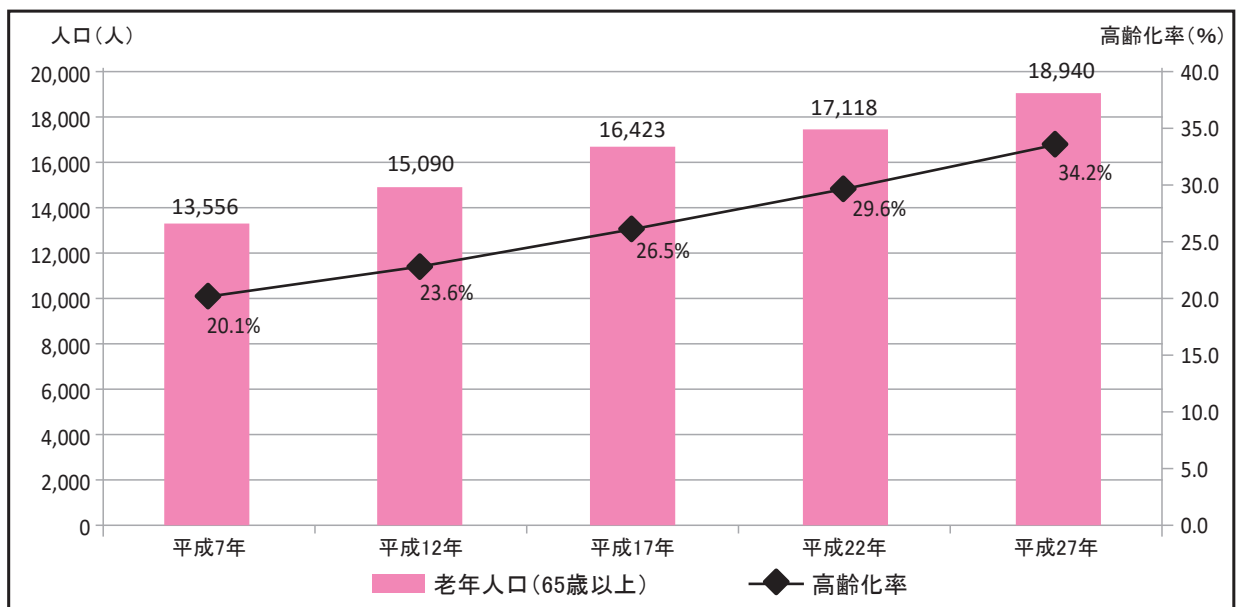


資料：国勢調査（平成7年～平成27年）

高齢化率は、年々上昇し、平成27年には34.2%となっており、全国平均（26.7%）と比べてもかなり高い傾向です。約3人に1人が高齢者となっており、ひとり暮らしの高齢者世帯が増加しています。

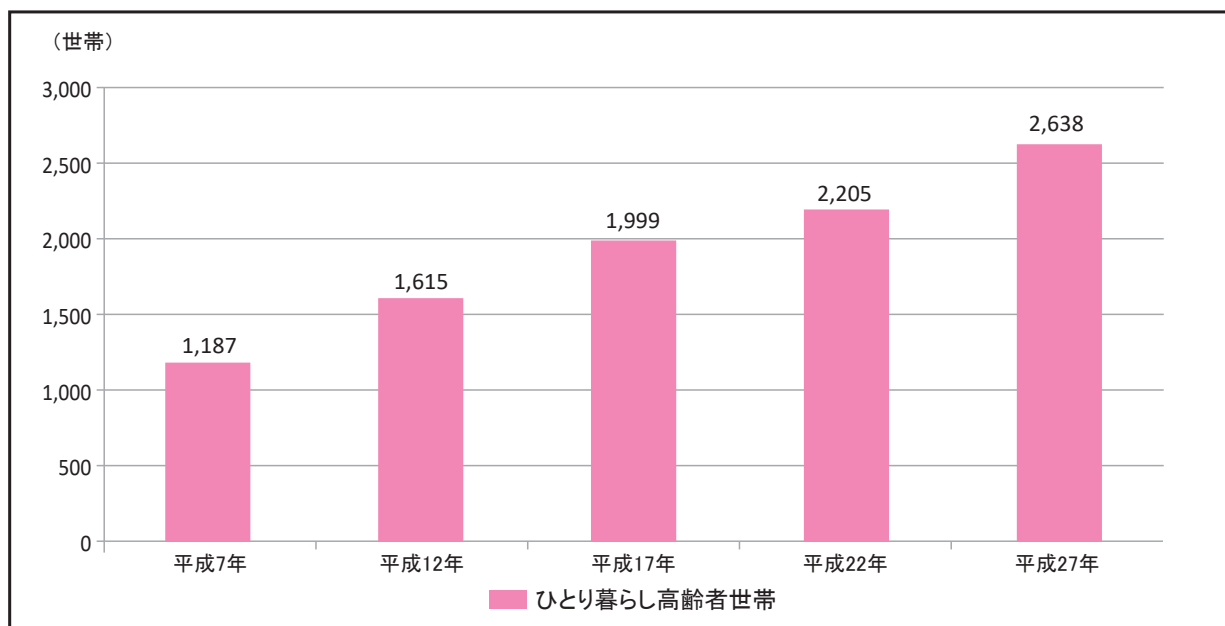
また、要支援・要介護者認定者数は、平成27年からほぼ横ばいで推移しています。

■高齢化率の推移



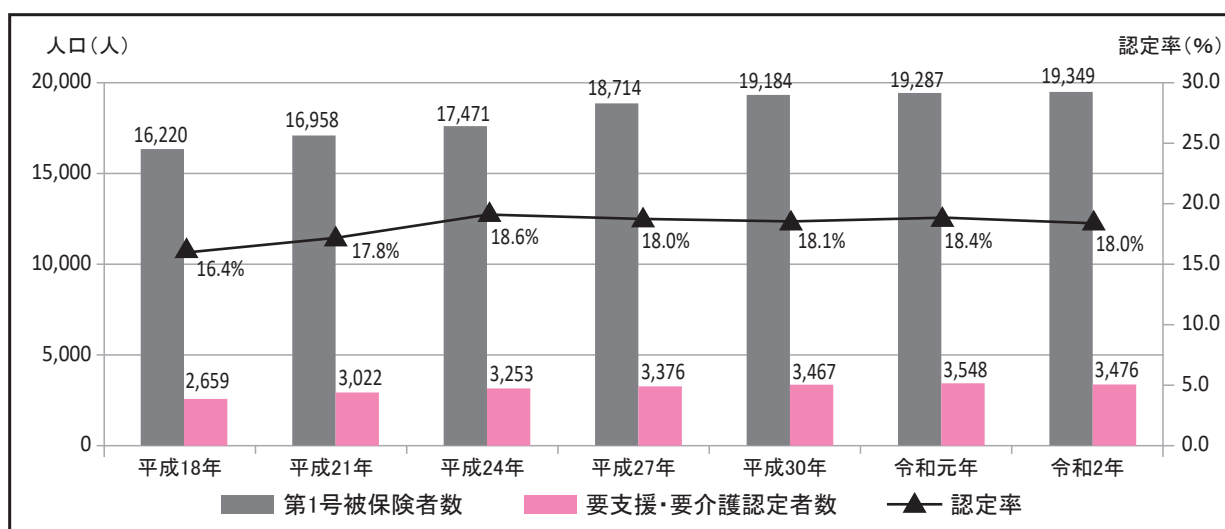
資料：国勢調査（平成7年～平成27年）

■ひとり暮らし高齢者世帯の推移



資料: 国勢調査(平成7年～平成27年)

■要支援・要介護認定者数の推移



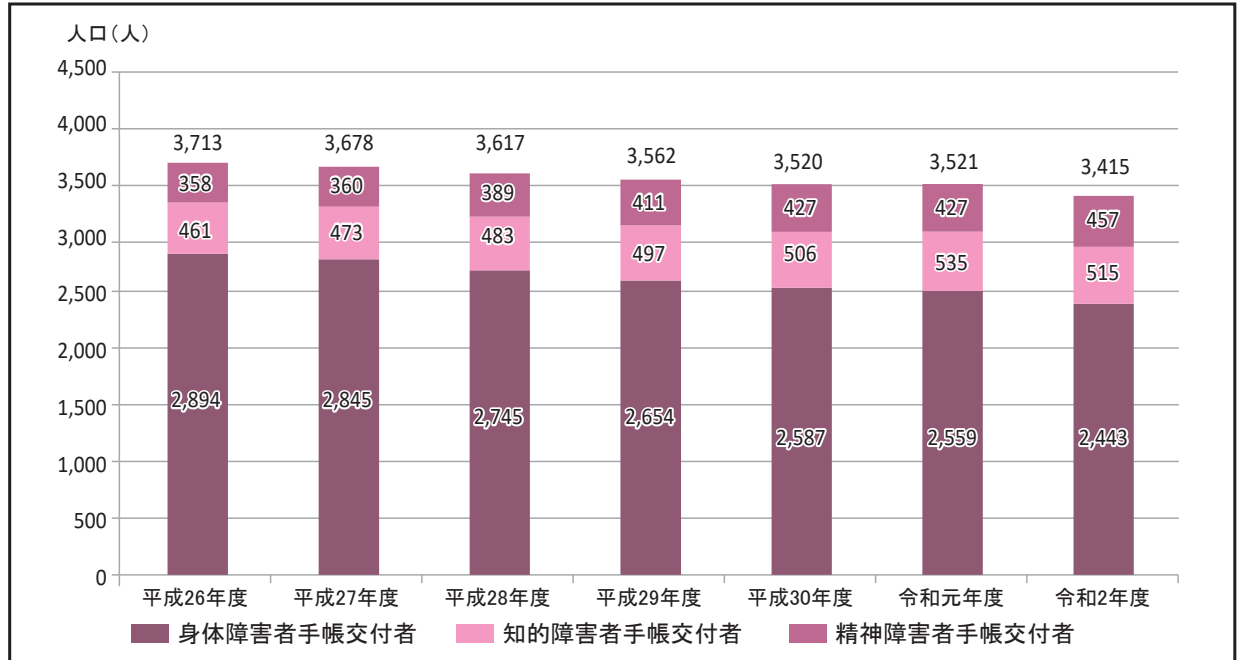
資料: 介護保険事業状況報告(平成18年～令和2年)

※要支援・要介護認定者数には第2号被保険者は含まない。

障害者手帳所持者数は、減少傾向にあり、その中でも身体障害者手帳所持者数が年々減少しています。

■障害者数の推移

【各年度4月1日現在】



資料：福祉課調（平成26年～令和2年）

(2) 地域福祉懇談会

① 実施概要

本計画の策定にあたり、地域の現状と課題を把握し、より多くの住民の視点を取り入れるために、全15地区で地域福祉懇談会を開催しました。

② 実施方法

班分けを行い、身近な困りごとの洗い出し、解決に向けた取り組みなどを話し合いました。

③ 地域の身近な困りごと

身近な困りごとのうち、地域として優先的に解決した方がいいと思うことを自分たちで順位付けしました。その結果の取りまとめが以下の順位です。

地域の身近な困りごと（全地域のまとめ）

順位	分類	身近な困りごと
1位	「移動」	<ul style="list-style-type: none"> ・免許返納後の移動 ・公共交通がない、不便 ・障害者、高齢者の移動
2位	「生活」	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、障害者の生活問題 ・草むしり、ゴミ出し、除雪 ・ゴミ当番、集積所が遠い
3位	「見守り」	<ul style="list-style-type: none"> ・体制の構築が難しい ・障害者、高齢者の見守り ・通学路の見守り ・引きこもり高齢者の見守り ・高齢者の安否確認
4位	「買い物」	<ul style="list-style-type: none"> ・店が少ない ・自動車がない ・買い物に行けない ・移動手段がない ・交通の便が悪い
5位	「つながり」	<ul style="list-style-type: none"> ・世代交代ができない ・近所付き合いの希薄化 ・若い人の地域離れ ・地域行事への参加が少ない ・居場所がない ・集まる場所がない
6位	「担い手」	<ul style="list-style-type: none"> ・世代交代ができない ・地域活動の存続ができない ・地域活動者の人材不足 ・町会役員の担い手がいない ・集落の維持が困難
7位	「介護」	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅介護が可能か不安 ・施設入所（利用）ができるのか不安 ・仕事と介護の両立ができるのか ・独居、高齢者のみ世帯の介護について ・制度が良くわからず不安
8位	「空き家」	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家の管理 ・倒壊、防犯、防災上の問題 ・持ち主と連絡が取れない ・空き家の増加
9位	「獣害」	<ul style="list-style-type: none"> ・イノシシによる被害 ・ごみのポイ捨てによる猫・カラスの問題
10位	「防災・災害対策」	<ul style="list-style-type: none"> ・水害対策 ・風水害への対策 ・地域の防災 ・高齢者の避難体制の検討 ・避難所の周知 ・要援護者の避難 ・災害時の地域の対応

2. 課題

(1) 地域を取り巻く課題

人口減少や少子高齢化の進行から、地域活動が低下する傾向にあり、つながりが弱くなっている状況です。地域福祉を進めるには、一人ひとりのつながりを強め、信頼関係を築くことで、お互いが支え合えるネットワークづくりが重要です。

また、住み慣れた地域で安心して暮らすためには、ネットワークから外れた人や、支援を求める声を出せない人を早期に発見し、支援につなげる体制づくりが必要です。支援が必要な人を特別視するのではなく、社会の一員として地域社会への積極的な参加を促すことが重要です。

地域活動を進めるためには、活動の中心となるリーダーや、活動を担う人材の育成と地域住民が活動について知り、体験する機会が必要であり、幅広い住民の参画を得て、地域福祉を推進していく必要があります。

(2) 高齢者を取り巻く課題

高齢になるにつれ、避けようのない体力の衰えや認知機能の低下などにより、これまで自身でできていた買い物や移動、自宅の草むしり・ごみ出し・除雪などの日常生活が思うようにできなくなり、支援を求める人が増えています。今後も高齢化と高齢者世帯の増加が進行していく中で、このような支援を必要とする人が増えていくことが予想されます。その一方で、支援する側になれる元気な高齢者が増えることも予想されます。地域では、元気な高齢者をはじめ地域の貴重な財産と支援を求める高齢者をどのように結びつけ、取り組むかが課題となっています。

また、高齢者がいつまでも元気で暮らすためには、自身の健康を保つことや生きがいを感じることも重要です。社会参加や介護予防という観点からも、高齢者が集い交流できる場や、勤労意欲のある高齢者が働ける場を設けることも課題となっています。

(3) 障害者を取り巻く課題

今もなお、障害者に対する差別や偏見は根強く残っています。そのことが原因で障害者自身が、閉じこもりがちな傾向にあり、ふれあいの機会が少なくなっています。障害の有無に関わらず、住み慣れた地域で安心した生活を送ることは全ての人の願いです。住民一人ひとりが障害や障害のある人への理解を深めることが重要です。

また、障害者が地域社会で自立して暮らしていくためには、生活していただくだけの収入が必要です。障害者の雇用機会の確保も求められており、情報提供も含めたしくみづくりが課題となっています。

(4) 子どもを取り巻く課題

子どもを取り巻く環境は、少子化・核家族化・ひとり親家庭の増加などにより大きく変化し、子育てに関する相談窓口の充実や子どもの居場所づくりの支援などが求められています。しかしながら、時代の変化に伴い、子育て家庭では、プライバシーの考え方や地域との関り方など生活に対する意識が変化し、地域全体で子どもを育てていくという意識はかなり薄くなっています。

子どもを生き育てる基本的な責任は、その家族にあるとの認識のもと、次の時代を担う子どもが、安全安心な環境で健やかに生まれ育てられるよう、子どもと家庭を地域全体で応援していく取り組みが必要です。

(5) 共通する課題

福祉サービスについては、さまざまなものが提供されていますが、サービスの種類や利用方法などの情報が必要な人になかなか伝わっていない状況です。情報提供のあり方も含めて、より利用しやすいしくみを引き続き整えていく必要があります。

健康については、子どもから高齢者までが生涯にわたって健やかな人生を送るため一人ひとりが生活習慣への関心を深め、自分の健康状態を知り、健康づくりに取り組むことが重要です。日々の暮らしの中で、健康づくりを実践しやすくするため、自主的な健康づくりグループへの支援や、地域ぐるみで健康づくりを行えるような支援体制の整備が必要です。

生活困窮者については、早期に把握し、地域全体として見守る必要があるため、ネットワークを強化し、働く場や交流できる場を広げていくことが必要です。

さまざまな精神上的の障害が理由で判断能力が不十分な人については、地域で自立して暮らし続けるために、権利や利益を守ることが必要です。